



総合的な学習の時間とつながる家庭科の学び
－SDGsの視点に立った衣生活学習に関する中学校での授業検討－

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育学部 公開日: 2021-09-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大矢, 英世, 宮本, 由宇, 山口, 麻衣子, 岩見, ミカ, 伊波, 富久美, Oya, Hideyo, Miyamoto, Yu, Iwami, Mika メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/00010248

総合的な学習の時間とつながる家庭科の学び

－ SDGs の視点に立った衣生活学習に関する中学校での授業検討－

大矢英世^{*1} 宮本由宇^{*2} 山口麻衣子^{*3} 岩見ミカ^{*4} 伊波富久美^{*5}

The Relation of Studying Home Economics to Comprehensive Learning Examination of Junior High School Lessons on Clothing Education as SDGs

Hideyo OYA^{*1}, Yu MIYAMOTO^{*2}, Maiko YAMAGUCHI^{*3},
Mika IWAMI^{*4}, and Fukumi IHA^{*5}

I. 研究の背景および目的

2017年告示の学習指導要領には、初めて前文がつけられ、そこには「これからの学校には、一人一人の生徒(児童)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と記されている。このように、ESD (Education for Sustainable Development) が学習指導要領の教育理念の中心に位置づけられている。

家庭科における深い学びの実現にむけた生活の営みに係る見方・考え方としても「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」とともに「持続可能な社会の構築」の視点が示されている。この持続可能な社会の構築をめざすESDの視点は、すでに2008年の学習指導要領の解説で取り上げられており、日本各地で実践検討が進められ、SDGsの視点を入れた家庭科の授業づくりも広がりつつある。

2020年度の宮崎大学学部附属共同研究・家庭科部会では、「かかわる力」「つながる力」を育成する家庭科学習という昨年度のテーマを引き継ぎ、子どもの「つなげる力」を育成するための授業の在り方について研究を進めた。

その際の大きな障壁となったのは、新型コロナウイルス感染症であった。コロナ禍のなかで、これまでの日常生活において当たり前に行っていたことも持続困難な状況が生まれ、学校では、感染症対策を念頭に置いた授業づくりへの転換が求められた。とりわけ、家庭科は、調理実習をはじめとして、生徒同士の協働・協力により成り立つ授業がほとんどである。そのため、附属学校での家庭科も、学習内容や授業の進め方について、新型コロナ感染状況による学校の方針に合わせて、変更・修正を加えながらの手探りの授業づくりとなった。

今回の持続困難な日常をもたらした新型コロナウイルス感染症の流行は、人間が森林を切り

^{*1} 宮崎大学教育学部 ^{*2} 宮崎大学教育学部附属中学校 ^{*3} 宮崎大学教育学部附属小学校

^{*4} 美郷町立美郷北義務教育学校 ^{*5} 宮崎大学大学院教育学研究科

開き、生物多様性を壊したことに起因するという指摘もされている。また、感染症対策として発令された人々の活動や移動の制限は、経済破綻や人権問題の連鎖を生み出し、弱者がより窮地に追い込まれる状況をつくりだしている。このコロナ禍での切実な生活実感は、さまざまな社会課題を自分ゴトとして考えていく大きな動機づけになるのではないだろうか。そのような願いをこめて衣生活学習を消費分野の学習とつなげSDGsの視点に立った授業づくりに取り組み、生徒の深い学びにつなげていきたいと考えた。

また、2020年度の宮崎大学附属中学校での家庭科における衣生活の授業実践は、総合的な学習の時間のキャリア教育とのつながりも意識しながら進めた。

本稿は、このような背景のもとで取り組んだSDGsの視点を入れた衣生活分野の授業の構想・試行について、その有効性と課題について明らかにすることを目的とする。

II. 研究に内容及び方法

1. 新学習指導要領をふまえ、「健康・快適・安全」および「生活文化の継承・創造」の視点から衣生活領域の教材を作成し、さらに「持続可能な社会の構築」の視点に立ち、衣服の消費行動を考える授業について検討した。

2. 総合的な学習の時間のキャリア教育とのつながりを意識して構想した衣服の消費行動を考える授業実践について、ワークシートやビデオ録画した授業記録を分析し、授業の有効性と課題を明らかにした。

III. 研究の成果と課題

1. 持続可能な社会の構築の視点からの教材検討

国連貿易開発会議によると、ファッション業界は、500万人の年間の需要を満たすのに十分な量に当たる約930億立方メートルの水が使われる一方で、約50万トンのマイクロファイバーが海に捨てられ、さらには、二酸化炭素排出量は世界の8%を占めるという状況にあり、統計上は、世界で2番目に汚染を排出する業界となっている。

このように深刻なSDGs達成への課題を抱える衣服の問題について注目されるようになったのは、2013年に起きたバングラディッシュのダッカ近郊にある商業ビル「ラナプラザ」の崩落事故である。この8階建てのビルには、複数の縫製工場が入っており、死者1138人、負傷者2500人以上を出す大惨事となった。縫製工場で働く多くの女性がこの事故の犠牲になったのである。この事故は世界中のファストファッションの裏側にある過酷な現状を象徴的に示したのである。

この事故を契機に制作されたドキュメンタリー映画「THE TRUE COST ～真の代償～」は、製造現場の劣悪な労働環境とともに、コットン畑で使用される農薬のリスク、皮革工場から川へ流される有毒な汚染水など、環境への悪影響も明らかにしている。衝撃的な映像だが、インパクトのあり、生徒の心に響く発信力がある。問題提起として予告編の形で作成されていたものを今回の授業の中でも視聴させている。

関連するSDGsを考えていくと、目標12の「つくる責任つかう責任」を中心に、目標1の「貧

困をなくそう」、目標3の「すべての人に健康と福祉を」、目標4の「質の高い教育をみんなに」、目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」、目標6の「安全な水とトイレを世界中に」、目標8の「働きがいも経済成長も」、目標9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標10の「人や国の不平等をなくそう」、目標13の「気候変動に具体的な対策を」、目標14の「海の豊かさを守ろう」、目標15の「陸の豊かさも守ろう」、目標16の「平和と公正をすべての人に」等多くの目標とつながってくる。

最新の流行を採り入れつつ、低価格に抑えた衣料品を大量生産し、短いサイクルで販売していくファストファッションは、日本の若い世代にも広く浸透している。結果として、シーズンごとに服を買い替え、流行が過ぎたら捨てていくという消費者側の行動を常態化させてしまったのである。このように、大量生産、大量消費・大量廃棄が繰り返され、衣服のごみによる環境汚染が深刻な問題となっている。さらにファストファッションの対極にある高級ブランドにおいても、ブランドイメージが下がることを恐れ、売れ残りは新品のまま廃棄している状況も起きている。最終的に、この課題と自らの生活に向き合わせたいと考えた。

2. 指導計画の概要（10時間目（本時）までの学習の流れ）

表1は、2020年度の宮崎大学附属中学校の2年生の1学期後半から2学期にかけて実施した衣生活学習の指導計画である。1クラスの生徒数は40名である。

表1 2020年度中2衣生活学習指導計画（全10時間）

1	自分らしくコーディネート
2	衣服の働き
3	衣服の構成(和服・洋服の特徴)
4	衣服の入手計画と選び方（入手から処分までの流れ）
夏休みの課題	NEW 和服のデザイン考案
5	NEW 和服 クラス代表作品選考会
6	衣服の素材と手入れ（教育実習生が担当）
7	衣服の汚れと手入れ（教育実習生が担当）
8	衣服の収納・保管
9	衣服の消費行動が環境に与える影響
10	衣服の消費行動が社会に与える影響（本時）

この衣生活分野の学習の前後に、消費生活の学習を配置している。衣生活と消費生活の学習を配置している。衣生活と消費生活の学習を重ね合わせた形での授業構成となっている。当初は、4時間分の被服製作実習を計画していたが、コロナ禍の影響で、この学習の流れの中に入れることはできていない。それぞれの授業における学習内容は、できる限り他教科の学習と関連付けることを心がけた。

1時間目の「自分らしくコーディネート」の授業では、全員がお気に入りの服を持参して交流するところから始めている。図1は、生徒が持参した服である。図2のようにそれぞれの服の品質表示のタグを含め、撮影して、記録に残している。これは10時間目の学習の布石とな

っている。授業のめあては「パーソナルカラーを探し、色、柄、形が与える印象について考えよう」として、着装についての学習を進めた。色彩については、色相、明度、彩度について、美術の学習と結びつけた。



図1 持参したお気に入りの服



図2 お気に入りの服の品質表示タグ

2時間目の「衣服の働き」の授業では、TPOに合わせた衣服の着用について考えた。3時間目の「衣服の構成」の授業では、社会科の学習と関連付けて民族衣装について紹介した。そのうえで、日本の和服の特徴を洋服と比較しながら押さえた。

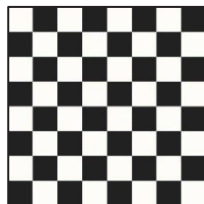


図3 市松模様

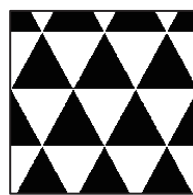


図4 うろこ模様

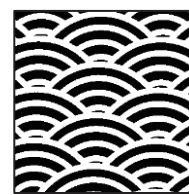


図5 青海波模様

また、ここでは、図3～図5に示したような伝統的な和柄を取り上げた。現在中学生にも絶大な人気を博している『鬼滅の刃』にちなんで、その登場人物のキャラクターと着用している和服に用いられている伝統的な和柄を関連付けて説明を加えた。これは、美術の課題で生徒が取り組んだレポートにヒントを得て教材にし、夏休みの課題“『NEW 和服』のデザイン考案”との関連を図っている。

4時間目は、衣服の選択の基準についてダイヤモンドランキングをすることで、どのようなことを重視して衣服を選択しているのかそれぞれの考えを交流し、資料をもとに衣服の入手か

ら処分までの流れを確認した。ここでは、SDGsの視点から生徒自身の衣服の管理について考察する場とした。

本実践での工夫点として、1～4時間目の学習の延長線上に夏休みに、図6の『NEW和服』のオリジナルデザインを考案する課題を課したことである。夏休み明けの5時間目の授業は、その『NEW和服デザイン』の選考会を行っている。この自分で考案する「NEW和服」デザインの課題及び選考会も、本時の学習を深めるための布石になっている。

図6 夏休みの課題提出用紙

『鬼滅の刃』の影響は大きく、生徒が意欲的に課題に取り組み、それぞれに個性のある和服と洋服の良いところを掛け合わせた動きやすいNEW和服が提案されていた。選考会は、気に入った5つの作品にシールを貼り、付箋にコメントを書いて貼り付ける形で実施した。

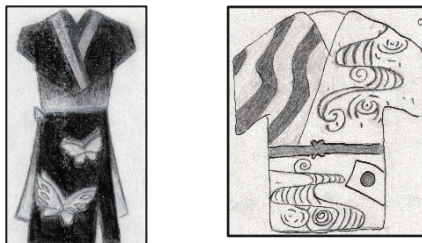


図7 生徒が考案したNEW和服デザイン

図7は生徒が考案したデザイン例である。左のイラストは、夏でも着やすい和服をイメージして半袖にして、生地を薄めにして涼しくスリットを入れる工夫が説明されていた。右のイラストは、流水という柄にこだわり、苦難や災厄をさらりと流すという願いが込められて考案されたものである。紐1本で結ぶだけで重くなく、歩いても疲れないうデザインであり、冬は長袖

を中に着て調節できるとの説明が加えられていた。

9時間目は、1枚のTシャツに焦点をあてて、原料の栽培から縫製、手元に届いて着用して最終的に処分されるまでの環境負荷についてパワーポイントを用いて説明しながら、SDGsの目標6（安全な水とトイレを世界中に）、目標13（気候変動に具体的な対策を）、目標14（海の豊かさを守ろう）、目標15（陸の豊かさを守ろう）の視点で生徒一人ひとりが自分にできることを考え、本時（10時間目）の衣服の生産および消費における課題に関する考察を深めるための学習としている。

図8は1枚のTシャツの一生を説明する際に使用したパワーポイント資料（一部）である。1枚のTシャツの製造から始まり着用して処分されるまでに抱えている問題に視点を当てている。コットンTシャツの裏側には、多くの環境問題、人権問題があることを取り上げている。

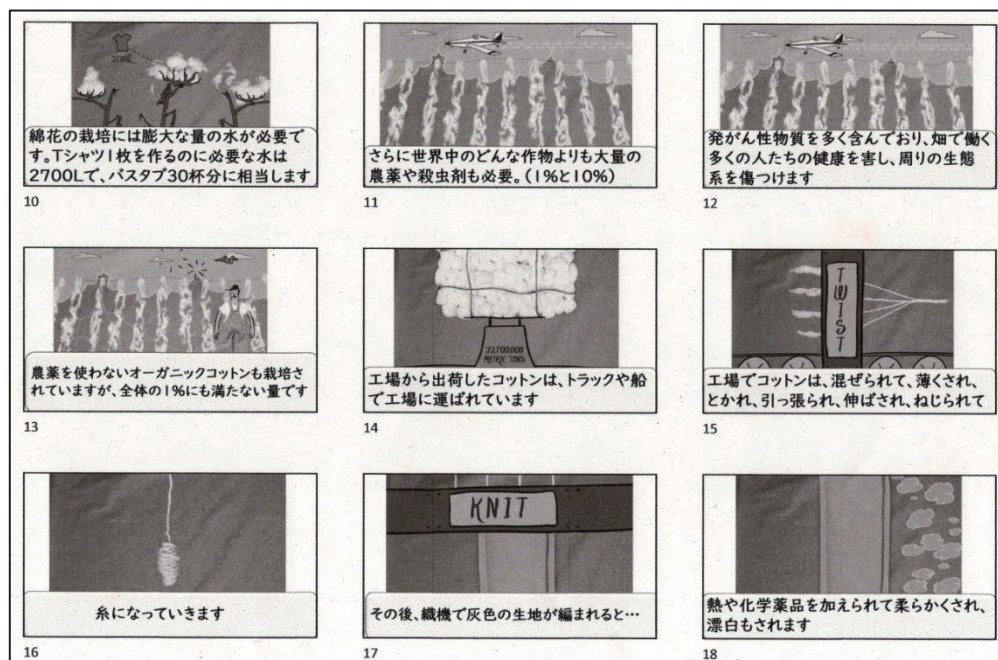


図8 1枚のTシャツの原料から形になり家庭で使用されて処分されるまで

画像出典：TED-ED The life cycle of a t-shirt - Angel Chang

以上、本時（10時間目）に至るまでの生徒の思考の流れを、とりわけ本時のセッションと関わりの高い学習を中心に整理した。

3. 本時の授業構成

1) 本時の目標

消費者の立場・企業や生産者の立場になって考えることで、消費者の行動が社会に影響を与えていることに気づき、これからの自分の生活や生き方につなげて考えることができる。

2) 本時の学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点
<p>1. 自分の消費行動を可視化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの服の購入価格と使用状況 ・自分の消費行動 ・自分が購入時に重視すること <p>2. 本時の学習内容を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>消費者の立場・企業や生産者の立場になって考え、これからの自分の生き方につなげよう</p> </div>	<p>○本時の学習内容について自分の行動を結びつけて考えていけるように3つの問いを投げかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1時間目に持参したお気に入りの服の購入価格、購入方法・使用状況について班で語り合う場を設定する。 ②自分の消費行動として3つのパターンの選択肢から自分の行動について考える。 ③自分の衣服購入で重視していることを意識化するために、ワークシートのチャート(図9)に赤のシールを貼る <p>○自分とクラスメートの考えの違いを視覚的に理解するためにグループ内で見比べる時間を設定する。</p>
<p>3. ファストファッションの裏側を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> ①お気に入りの服の原産国の確認 <li style="text-align: center;">↓ ②1500円のTシャツの価格内訳を考える <li style="text-align: center;">↓ ③2つの映像視聴 <ul style="list-style-type: none"> ・バングラディッシュ「ラナプラザ」崩壊事故 ・売れ残った服の行方 <li style="text-align: center;">↓ ④『NEW和服』選考会で投票した視点をあげる 	<p>○まずお気に入りの服の原産国表示を確認したうえで、1500円のTシャツを設定し、縫製・メーカー・小売店の3つの段階に分けて価格配分を予想させ、その理由を書く時間を設定する。</p> <p>その際「NEW和服」のデザイン制作およびデザインの売り込み等の活動を思い出させ、前時の綿花栽培工程での課題についても想起させる。</p> <p>○衣服の製作にかかわるすべての人の生活が設定された価格の積み重ねの中で営まれていることを理解させる。</p> <p>○生産者の思いや売れ残った服の行方について、映像を通して伝える。視聴時間は短くする。ラナプラザの崩壊事故が約3分、売れ残った衣服の行方が約15秒</p> <p>○『NEW和服』選考会での投票を想起させ、消費行動は投票行動と同じことであり、投票行動の結果は、消費行動の意識の持ち方で変わることにつなげる。</p>
<p>4. 企業・生産者の立場、消費者の立場からどのような取組ができるかアイデアを考える。</p>	<p>○これまでの学びを総動員して、どのような取り組みができるのか、どうしたら広げていけるのかを企業や生産者、消費者の立場に分かれて考えさせる。</p> <p>○自分のこととして考えることができるように、個人で考える時間を設けてから、班活動の時間を設定し、その後全体で共有する。</p> <p>○SDGs「12つくる責任・つかう責任」について考える場を設定する。</p> <p>○これまでの生活を振り返り、自分の衣服の“つかう責任”としてはどうだったのかを考えるように促す。</p>
<p>5. これからの自分の生き方や生活にどのようにつながっていきたいかを考える</p>	<p>○自分の生活と将来就く職業がつながっていることを押さえる。</p> <p>○自分の生き方につなげて考えることができるように、3年の総合は、「仕事を創造する」となることを再確認し、全ての人の生活を意識した提案を行ってほしい旨を伝える。</p> <p>○ワークシートに授業を通して考えたことをまとめる時間を設定する。</p> <p>○意識の変化を見るために、1で使用したワークシートのチャートに青のシールを貼らせ、挙手する場を設定する。</p>

4. 本時の流れと生徒の学び

1) 生徒自身の消費行動について考える

本時は、生徒自身の衣服の消費行動を見つめるところから始めた。ここでは3つの問いを通して考えさせている。

1つは、1時間目に持参したお気に入りの服について、購入方法、購入価格、使用状況についてグループで語り合う場面の設定である。

2つ目は、生徒自身の衣服に関する消費行動意識について、①常に新しい服を手に入れたい、②気に入って購入した服をずっと使い続けたい、③もらい物の服をそのまま使い続けても良いと考えるという3つの選択肢から答える設問である。

3つ目は、生徒自身の衣服購入に対する考えを個人のワークシートのチャート（図9）に赤いシールを貼る活動を入れた問いである。チャートの縦軸の指標は、価格の安さへのこだわりの強弱であり、横軸の指標は、個人の持つ商品へのこだわりの強弱として設定されている。このチャートには、授業終了時青のシールを貼るように設定した。

これら自分自身の衣服の消費行動の振り返りに続けて、お気に入りの服の原産国について確認していった。

2) お気に入りの服が手元に届くまでのさまざまな課題に気づく

授業者の問いかけに対し、生徒からは、「中国」「ベトナム」「インドネシア」「バングラディッシュ」とパワーポイントで図10のグラフを示す前に、次々にお気に入りの服の品質表示タグに記載されていた「原産国」を挙げていた。原産国がなぜアジア諸国であるのかの理由を考えさせた。

生徒からは、「人件費が安いから」という答えが出された。授業者からは、「ではなぜ人件費の安いところに原産国があるのですか」とさらに問いが重ねられ、グループで話をするように1分程度時間を取った。生徒からは「安くしたいから」と答えが返された。

「では、なぜ、安くしたいのですか？利益を上げたいから？」と授業者が問いかけると、生徒から「安くした方がたくさん買ってくれるから」という意見があげられた。ここでは消費者が求める価格ニーズによって、労働力の安い国へ原産国が移動していることを押さえた。

さらに、この消費者のニーズについては、総合的学習の時間のキャリア教育で取り組んでいる仕事分析と重なる話であることを生徒とともに確認した。

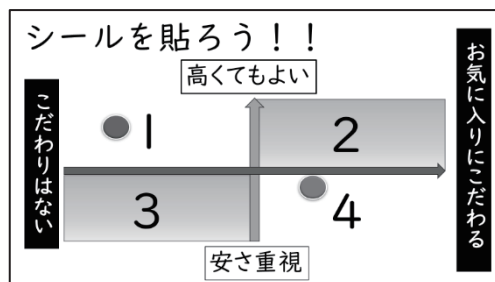


図9 衣服購入時に重視すること

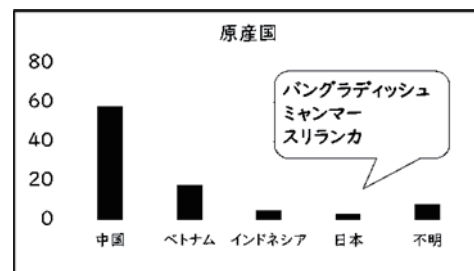


図10 お気に入り衣服の原産国

ここから、「安さ」を追求し続けて、生み出されたファストファッションの課題へと視点を移していった。

まず、衣服の1500円のTシャツを例にあげて、そのTシャツの価格の内訳について予想させる活動を取り入れた。3つの工程に分けてそれぞれの配分を予想し、予想した内訳とそう考えた理由をワークシート(図11)に記入する時間をとった。課題の説明には、図12のスライドを用いて説明している。

級 番 名 前 ()

家庭科ワークシート 消費生活が社会に与える影響

〈めあて〉
消費者や企業・生産者の立場になって考え、これからの自分の生活や生き方につなげよう

1 わたしはズバリこのタイプ!
自分が服を選択するときの考えに近い位置にシール(1回目赤、2回目青)を貼ろう!

こだわりのない

1

2

3

4

お気に入りのこだわり

高くても良い

安さ重視

2 値段の内訳を考えてみよう!

1500円

【縫製(ほうせい)】
原料~縫い合わせて服がでるまで

【メーカー】
デザインや販売管理など

【小売業(こうりぎょう)】
販売するお店

そのように設定した理由

メモ欄

3 消費者と企業・生産者の立場に分かれて、どのような取組ができるか、どのような行動をとることができるか、どうしたら広げていけるか、アイデアを考えよう!

立場【消費者 / 企業・生産者】

5 SDGsの観点から、これからの自分の生き方や生活につなげて考えてみよう!

図11 授業で用いたワークシート

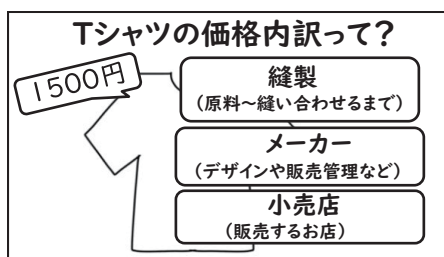


図12 Tシャツの価格の内訳を考える

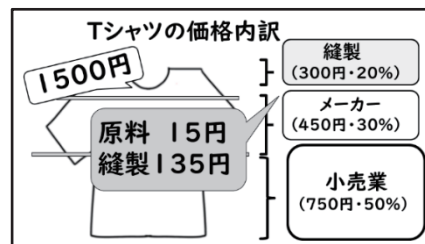


図13 授業者が示したTシャツの価格の内訳

その際、これまでの被服製作や『NEW 和服』のデザインを考案したことや『NEW 和服』のデザインの売り込み活動も思い出して考えてほしいことを付け加えた。

生徒の価格配分の予想について、ここでは4例を紹介する。

生徒Aは、縫製が600円、メーカーが500円、小売業が400円と配分し、その理由として、服をつくることは、労力や時間も一番多く使うし、次に、デザインが大事で、小売業はあまり

労力がかからないからと説明していた。

生徒Bは、縫製が500円、メーカーが700円、小売業が300円と配分し、その理由として、NEW和服を考案したときはかなり時間がかかり大変だったし、その服の基礎を成すものであるからと説明した。

生徒Cは、縫製が300円、メーカーが600円、小売業が600円と配分し、その理由として、縫製は大量生産するため原価はそこまで高くないし、メーカーが大事だが、小売業はお店の電気代やその服の管理代などがかかるからと答えた。

生徒Dは、縫製が400円、メーカーが800円、小売業が300円と配分し、その理由として、縫製は海外で行っているのだから、価格を抑えられるからと説明した。

生徒自身の体験にもとづき、製作に労力と時間がかかるという理由で、4割強の生徒が縫製工程を最も高い価格配分にしていて、直前に、縫製は賃金の安い海外に依存していることを取り上げたにもかかわらず、Dのようにそのことを価格内訳の予想に反映させている生徒は、非常に少なかった。しかし一方で、被服製作や『NEW和服』のデザイン考案やそのデザインの売りこみをした生徒自身の体験をもとに、労働に対する真つ当な対価を考えた結果の予想であったとも言えよう。

生徒の価格内訳の予想を交流させた後に、図12の「Tシャツの価格内訳」を一例として提示し、Tシャツの価格内訳としては、5割を小売業が占め、縫製工程は2割程度であることを説明した。この自分たちの予想を覆す現実の衝撃につなげて、安い労働力に頼る過酷な縫製工場のドキュメンタリー映画のダイジェスト版を服の廃棄問題の映像とともに視聴させ、生徒の問題意識の醸成を目指した。

ここで、再び『NEW和服』デザインの選考会のことを話題にし、どのような視点でデザインを選んだのかを想起させている。消費行動は、投票行動であり、その結果は、消費者の意識の持ち方で変わっていくことの説明を加えた。

3) 企業・生産者ができる取組、消費者ができる取組を考える

これまでの学びを集結して、企業・生産者の在り方、および消費者の在り方を考える場を設定した。衣服の生産から廃棄に至るまでの課題を克服し、より良い衣服の消費システムをつくっていくためには、どのような取組ができるのか、どのような行動をとることができるのか、また、どうしたらそのような取組を広げていけるのかを企業・生産者の立場と消費者の立場に分かれて考えさせた。時間の関係上、企業・生産者の立場で考える班と、消費者の立場で考える班に分けた。

また、自分ごととして考えることができるように、個人で考える時間を設け、次に班活動の時間を設定するようにした。班でまとめた意見はB4用紙にマーカーペンで書きだし、全体で共有した。

企業・生産者としてできることとして挙げられた意見は、「ジャストインタイムという生産方式（受注生産）にする」、「売れ残りを使って次の商品をつくる」、「影響力のある何かとコラボして、服をつくるのがたいへんだということを伝える動画を作成する」、「長く使えるものを作る」、「自然に返すことのできる材料を使った服を作っていくようにする」、「通年使用可能な服や男女兼用で使える服をつくる」、「AI機器を取り入れ、人件費を削減する（はま寿司のペーパー君の例を参考に）」、「売れ残った服は、端切れにして手芸店に売る」、「消費者にアンケー

トを実施し、アンケート結果を商品に反映させる」、「リサイクルに協力（古着を持参）した人には割引券を進呈する」、「余った服で何かを作る教室を開く」、「古着屋、レンタルショップとコラボする」などであった。

一方、消費者としてできることとして挙げられた意見は、「試着をして質をきちんと見極めから買うようにする」、「着られなくなった服を寄付に出してから新しい服を買うようにする」、「着なくなった服は、メルカリで売るようにする」、「ブランドにとらわれすぎないようにする」、「トレンドをなくす」、「服を買うときは、脳内会議をしてから買うようにする」、「サイズをしっかり見て、ジャストサイズを買うようにする」、「太った時や、背が伸びた時のことを考えて1つ上のサイズを買う」、「貧困地域に服を送る活動に参加する」、「ネットで商品に関する情報を共有する」、「服は必要なものだけを買うようにする」などである。

生徒から出された意見からは、消費者としての工夫よりも、むしろ企業・生産者としての工夫の方が視野を広げて考えられていたように見える。これは、総合的な学習の時間での学びと結びつけて考えることができているためではないだろうか。

生徒の意見の中には『フェアトレード』というキーワードは出てこなかったが、今後の学びの中で深めていくことが必要であると考ええる。

4) 本時の学習の振り返り

(SDGsの観点から、これからの自分の生き方や生活につなげて考える)

生徒の振り返りとしては以下のような記述が見られた。

「企業などを営んでいる立場の人の利益と自分の満足度、自然環境への影響の両立を考えながら生活しなければならないと感じました。特に消費者の「連帯する責任」を他の人とも協力し合って実行することが環境を守るために大切だと感じました。」

「ここでないのは労働者の人権だと思った。平等にならないといけなはずなのに、労働者と消費者で人権が大きくかわっているところに疑問を持ち、人権を保障するべきだと思った。」

「買うのはいいがすぐ着なくなって、一部の洋服しか着ていないということがこれまで多くあった。つかう責任の意識が全然できていなかったの、今回の授業を通して知った事実をこれからの生活に活かしていきたい。また、つくる責任を負う側にこれからなるかもしれないので、学んだことを大切にしていきたい」

これら生徒の振り返りが生活の中で真に活かされていくためにも、さらに今回の学びを他の領域での学習にもつなげ、ここだけの学びで終わらせないことが肝要である。

5. 今後の課題

本授業構想では、ファッション業界の裏側に迫る学習内容で、SDGsにつながる生産・消費のさまざまな課題を取り上げた。『NEW和服』のデザイン発案の課題は、多くの生徒の意欲的な作品を生み出し、学びの動機づけとして効果的に作用するものであったと考える。また、指導計画の流れの中で、それぞれの授業での学びを意図的につなげて生徒に振り返りを促す工夫が多く見られた。

しかし、授業における話し合いの場面で、大きな社会課題を前にして、生徒一人ひとりが「自分ゴト」として問題に向き合うことができているのか更に検討していく必要がある。これまでも家庭科は「自分の問題として考える」ことを大切にしてきた。そして、SDGsについても、

社会の現象や課題を「自分ゴト」として考えることが求められているのである。

授業者が時間をかけて作成した教材も、示し方や発問の仕方が上手くはまっていないと生徒が表面的な思考で答えるだけの流れになってしまいかねない。生徒自身の身に迫るような問いを準備することや、それまでの学びの積み重ねによって生徒の中から湧き出てくる問題意識の醸成がポイントとなるであろう。今後さらに検討を重ねていく必要があると考える。

6. 総合的な学習の時間と家庭科のつながり

学習指導要領総則には、教科等横断的な学びを重視する「カリキュラム・マネジメント」というキーワードが示され、総合的な学習の時間を中心に教科を横断的に組み立て教育課程の編成し、主体的・対話的で深い学びを作っていくことが記されている。

今回の授業では、附属中学校が総合的な学習の時間で取り組んできているキャリア教育とのつながりも大切にし、企業・生産者の立場からの取組について考える場面を設定している。

元来、家庭科はキャリア教育としての性質も持ち合わせている。児美川（2013）は、「通常、キャリア教育と言うと、関連の深い教科や領域としては、社会科や『総合的な学習の時間』を思い浮かべることが多いが、キャリア教育という観点から見て、家庭科は非常に有益な教科であると考えている」と述べ、高等学校の生涯の生活設計という単元の学習のねらいは、キャリアプランの作成の実践とも大きく重なっており、両者が連動するような学習が進められれば、キャリアプランを作成させる取り組みが持つ教育効果も大きくなるにちがいないと指摘している。このように職業としてのキャリアと生活としてのキャリア（ライフキャリア）を重ねることでより重層的な学びにすることができると考える。総合的な学習の時間の学びとのつながりも家庭科として、さまざまな切り口でアプローチできるように検討していきたい。

IV. 引用・参考文献

- 1) 大矢英世,SDGsをツールとした授業作り,生活と学びの研究会,生活からはじめる教育,開隆堂,p.18,2021
- 2) 大矢英世,家庭科の衣生活学習とSDGs,日本家庭科教育学会誌,第64巻第1号,86-89,2021
- 3) 文部科学省,中学校学習指導要領(平成29年告示)解説(技術・家庭編),開隆堂,2018
- 4) 児美川孝一郎,キャリア教育のウソ,ちくまプリマー新書,111-134,2013
- 5) 東京都消費生活総合センター,カートくんの買い物ナビゲーション,2015
- 6) ピエトラ・リボリ,あなたのTシャツはどこから来たのか?,東洋経済新聞社,2007
- 7) エリザベス・L・クライアン,クローゼットの中の憂鬱ファストファッション,春秋社,2014
- 8) 鬼塚拓,竹内元,藤本将人,盛満弥生,小林博典,安影亜紀,山下辰弥,椋木香子,宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践の特質と課題,宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要第28号,31-46,2020